

残光枯草庵記（75）「日本の傘文化」

民放テレビの「所さんの日本の出番」という番組で、日本人は天気が悪いと傘を持ち歩き、少しの雨でも傘をさしているが、多くの外国では傘を持ち歩く人はほとんどいなくて、少々の雨なら濡れて歩くか、せいぜいレインコートを羽織る程度、大雨なら雨宿りして止むのを待つのが普通らしく、この違いは何故かを取り上げていた。そう言われると、我家には折りたたみや日傘まで含めると10数本の傘が常備されているし、外国の家庭でもそうだと単純に思い込んでいたが、どうやら外国では違っているらしい。

東京オリンピックの時も別のTV番組でヨーロッパ人の女性ジャーナリストが「日本の女性は真夏に日傘を差して歩く傘文化が残っている。これは嘗てヨーロッパにあったものだが、今はもうない。日本の女性は繊細だ。」と感心していた。

上の所さんの番組の結論は、日本では比較的雨が多く、雨で約束に遅れることを善しとしない日本人の勤勉さ・真面目さが日本独特の傘文化を生んだということであった。

家内は朝昼晩のNHKテレビの気象予報番組を病的なくらい必ず見る習慣があり、今日や明日の天気、豪雨・台風・降雪・朝昼夕の気温・霜の有無についての情報把握に異常なまでの偏執狂的関心を持っている。そういう私も緑化ボランティア（地域公共地の草刈など）やシニアソフトボール、ゴルフなどの野外活動で毎週数日を費やしているのに、毎日のようにテレビ、スマホで明日の天気や週間予報などをチラチラと必ず見ているが、それが当たり前だと思ってきた。日本のテレビのニュース番組や昼のワイドショー番組の中でも気象予報のコーナーではかなりの時間をかけて微に入り細に渡って解説するくらい人気があるらしい。すなわち、日本の気象番組では、数時間毎の晴れ・曇り・雨、最低気温・最高気温、降水確率・雨量、過去1時間・3時間・24時間降雨量累積、気圧、天気図、衛星写真、湿度、風向・風速、波高、種々の注意報などが日常的に報じられ、果ては月間～長期予報、洗濯指数、不快指数、熱中症指数、その日の1時間当たりの日照時間まで表示されているものもあって、余計なお世話さ加減ではバスや電車の車内とか駅構内放送に負けないくらいである。とくに台風が来るときには一週間前くらいから常設番組を変更してまで詳しく解説される。時折CNNなどの外国のニュース番組を見るが、ハリケーン来襲や豪雨雪時は別として気象予報は一般に大まかで簡単に終わっているようだ。

何故日本では気象への関心が高いか、それは海と山に囲まれた狭い土地に1億の人々が暮らしているため、雨や風による自然災害が短時間の内に襲って家や農作地や舟を流す、即ち「雨＝災害」の観念が日本人の頭に大昔からずっとこび

りついているからであろう。それにしても最近の天気予報は数日前辺りからよく当たるようになって来て感心している。それは、スーパーコンピューターを使った大規模な長期予報理論が確立したからで、とくに2~3日前からは大抵は天気予報は当たる。

そして、日本人が雨が降ると必ず傘をさすのは「所さんの日本の出番」が言うように勤勉さの現れと思われるが、その勤勉さは何処からきたのか。恐らく、平安・鎌倉時代以降の政権支配地域は多数の領地・荘園・村落・字に細分されて統治され、貢租や年貢の確実な収税における「四公六民」という「生かさず、殺さず」の制度や、江戸時代の隣組制（共同責任制）が長く施かれてきた為ではないかと私は考えている。すなわち、「集団に迷惑を掛けずに暮らせば何とか安寧な生活が送れる」という教えは仏教や儒教の基本でもあり、「人や集団、社会に迷惑を掛けない」「ものを大切に使う」という美德が政教一致した国民の観念として長く培われてきた。そして、掟や習慣を破り迷惑を掛けた「出る釘的人物」は厳罰を受け、また村八分にされて追放されたのである。仕事や学校の授業に遅れない、人と約束した時間を守る、そのために雨宿りをするよりも傘を差す、或いは雨具をつけて目的地に向かうことを優先する。「自分が遅れて悪かった、申し訳ない」と思ってしまう。これが日本の社会習慣というか、社会ルールないしはモラルである。何に対して「悪い」と思うのか、それは遅刻をある種の罪悪・恥であると思っている自分自身であったり、学資を出してくれている親であったり、一生懸命準備をしてくれた主催者であり、講義や講演の先生とか演者、約束をした知人・友人などに対して、そして大切な衣服を雨で濡らして傷めることに対してである。欧米人は集団よりも「個人主義」が優先する観念を持っており、社会も個の考え方を許容するから、きつい雨が降ると約束の時間に少々遅れても自己責任において雨宿りする方をとり、相手もそれが当たり前だと思っている。だから少々の雨では傘を持って歩かないし、雨に対する準備をしたとしてもレインコートや帽子、レインウェア、レインシューズをファッションとして着用し、傘をさす感覚なのである。

因みに、日本では傘のデザイン、機能、素材に関しては日本らしく多種多様で、折り畳み傘の豊富さや安価なコンビニ傘には外国人も感心するらしい。コンビニ傘の中ではとくに無色透明のものに外人は驚き、風雨の中での見通しの良さから絶賛する外国人もいるとか。

閑話休題、日本では電車やバスはほぼダイヤ通り運行されるのが当たり前で、ダイヤが乱れ到着が遅れると天変地異の原因でもない限り運行者は遅れたこと、乱れたことに対して「迷惑をお掛けしました」、「悪かった」と平謝りに謝る。しかし、外国では少々列車が遅れても「仕方のないこと、あり得ること、当然のこと」として許容され、ペコペコ謝るようなことはしないし、乗客もそれが日常

事だと思っているからブツブツ不平を呟くことはあっても殆ど文句は言わない。一方、日本人は「勤勉な国民」だとよく言われるが、「働かないことは家族に迷惑をかけるから良くない、悪いことだ」と思う観念が日本人のDNAに染みついている。このように日本でダイヤ通り電車やバスが運行されることや勤勉であることと、雨天に大多数の人が傘をさすこととは同根なのである。

近年、日本人のモラルも徐々に低下し、「悪かった」、「迷惑を掛けた」と思うことが平均的に低下しているのではないかと思われる事象が間々見受けられる。しかし、傘をさす人が大多数である間はそんなに心配しなくてもよいのではないかとたかを括^くっているのであるが、如何なものであろうか。